

現代日本画の巨星―

「片岡球子展」 ―100歳を記念して Kataoka Tamako ― the centennial-anniversary

- 会 期 : 2005年4月9日(土)～6月26日(日)
休 館 日 : 月曜日、祝日の翌日 [5月6日(金)]
開館時間 : 午前9時30分～午後5時 [入場は午後4時30分まで]
観 覧 料 : 一般900(800)円 20歳未満・学生750(650)円 65歳以上450円
()内は20名以上の団体料金です。
高校生以下の方、障害者の方は無料です。
- 会 場 : 神奈川県立近代美術館 葉山
〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1
tel. 046-875-2800
- 主 催 : 神奈川県立近代美術館、朝日新聞社
共 催 : 神奈川新聞社

開催趣旨

2005年、画家片岡球子は満100歳を迎えました。この機会に、院展出品作を中心に片岡球子の画業をあらためてたどることで、日本画の世界にとどまらず広く現代の絵画に大きな問いかけを放ちつづけるこの画家の仕事の真価を探ろうと考え、本格的な回顧展を企画いたしました。

1905年、札幌で醸造業を営む家庭に生まれた片岡球子は、女子美術専門学校に学んだのち、横浜市立大岡小中学校教諭となりました。以後30年間同校で教えたのち、女子美術大学、愛知県立芸術大学で教鞭を取り、現在も同大学の客員教授として学生を指導しています。1930年に院展初入選後、さらに自分の絵を求めて試行を続け《美術部にて》で大観賞受賞、院展同人となり、院展を主な舞台に独創的で奔放な絵画を発表してきました。1982年に芸術院会員となり、1989年に文化勲章を受けて、現在にいたっています。

今回の回顧展では、片岡球子のおよそ80年間にわたる仕事のなかで中核をなす院展出品作に強い光を当て、エネルギーに満ちた足跡をたどりま^{つらがまえ}す。片岡の〈ライフワーク〉となっている「面構」のシリーズを中心に、桜島や浅間山といった火山シリーズから「富士山」のシリーズ、裸婦の「ポーズ」のシリーズ、さらに今回初めてデッサンを公開し片岡芸術の全貌を解き明かしていきたいと考えております。

詳しくは、美術館ホームページに掲載される下記のプレス情報をご覧ください。

http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/press/2004r_kataokatamako.pdf

お問い合わせ先

神奈川県立近代美術館 葉山 〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1
tel. 046-875-2800 / fax. 046-875-2968 広報担当：忌部 展覧会担当：山梨・奥野

出品作について

1930年の院展初入選作《枇杷》から2003年の院展出品作《面構 歌川広重》まで秋の院展に発表された大型の作品を60～65点、そのほか片岡球子を語るときに不可欠の作品を20～25点ほど集め、全体を約80～90点で構成します。

なお、これまで未発表のデッサンも紹介いたします。



《学ぶ子ら》1933年
137.0×137.0 紙本着彩
北海道立近代美術館



《幻想》1961年 223.0×355.0 紙本着彩
神奈川県立近代美術館



つらがまえ
《面構 一休さま》2000年 160.0×320.0 紙本着彩 個人蔵



《山(富士山)》1967年
259.0×161.0 画布
北海道立近代美術館



《海(鳴門)》1962年
193.5×258.0 紙本着彩
神奈川県立近代美術館



つらがまえ
《面構 国貞改め三代豊国》1976年
188.0×340.0 紙本着彩 神奈川県立近代美術館